

話題 其の4: イスラムは寛容?

アンマン市で生活していて驚くことは、タクシーの多さです。

客を拾うために走っているタクシーを至る所で見かけます。車体全体は黄色に塗られています。最も多い車種は、日産かトヨタの日本車です。殆どのタクシーが歩いている人には必ずクラクションで「タクシーが来たよ、乗らないか?」と知らせます。クラクションは緊急時にしか使わない日本人には、慣れるまでに違和感を感じます。

私も愛車(未だに少し臭い)が来るまでの1ヶ月半は、毎日の通勤にタクシーを使っていました。これまで利用したタクシーで、運転手にたばこを勧められたのが10回以上あります。最初は、「タクシー料金を支払う時に揉めるかな?」とも思ったのですが、好奇心で頂きました。料金は、メーター付きでめったに「悪い奴」には出会いません。

極めつけは、飲みかけのコーヒーを勧められて呑んだこともあります。英語を話せる運転手は少なく、コミュニケーションの無い狭い車内は醒めた雰囲気包まれます。

特に、私の場合は必ず運転手の横(助手席)に座ります。後ろに座ると「そこ右、次は左」の身振り、手振りが伝えにくいし、運転手も後部座席に座ると人によっては危険を感じ、運転に集中出来ないだろうと思うからです。最初は「どこから来たの?」と聞くために「チャイニーズ?」「ジャパニーズ?」と切り出しますが、それっきりで会話が終わります。私の推測ですが、大の男が二人隣り合って座りながら会話が無いのは、彼等にとって少し苦痛なのかも知れません。たばこやコーヒーは空気を和らげる彼等なりの工夫なのでしょう。因みに、「タクシー料金は世界1安いよ～」と誰かが言っていますが、アンマン市内で私の行動範囲内は、1JD(ジョルダンディナール)＝約175円で行かれます。

また、先日はじめて散髪屋さんに行きました。

ここでは、たばこは勿論コーヒーも客の好みに合わせてサービスしてくれます。

髪を切る人も、切られる人もたばこを吸いながら、時に手を休めてコーヒーをすする。

ここでの極めつけはアラビア語教室さながらに、「これでもか・・・」とアラビア単語を教えてくれることです。私の髪を切ってくれたのは、ムスターファという30才くらいのパレスチナ人でした。英語は少し話しますが、会話は難しいですね。彼が教えるアラビア語を私が復唱するというこのアラビア語教室は40分授業でした。散髪料金は、授業料、コーヒー、たばこ付きで5JD(約850円)でした。「やばい」と思ったのは、「私」「イスラエル」「嫌い」という言葉を必死に教えてくれるのですが、復唱する私にとっては「洗脳される・・・」と危機感(?)を覚えたのです。それに、誰が聞いているかも解らないのに「そんなこと言える訳ないでしょう」とも伝える術もなく、「私 私 私 イスラエル イスラエル・・・」と一つの単語を数回繰り返して、文章にしないように復唱したのでした。とにかく、彼等は細かいことを気にしません。大らかなのです。よくイスラムは寛容ともいわれます。私の周りにも、思いやりがあって、親切な人が多いのも確かです。

人なつこい人たちからお節介なくらいの親切を受けているのは、日本人(外国人)という珍しさからではないようです。「親切を受ける事に慣れていない日本人」にはタクシー運転手や散髪屋さんの親切に代償を支払う義務を考えて煩わしさを覚えます。安全確保には、身構えることも大切ですが、一方で「人を信じる努力をしなければ・・・」と反省するのです。

執筆及び編集: 久米 篤憲